沖縄コカ・コーラボトリング株式会社

CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report



美ら島のために、美ら島とともに それが沖縄コカ・コーラボトリングの想いです。



目 次 contents

·目 次	P1
・日本のコカ・コーラシステム	P2
・経営理念	Р3
・トップメッセージ	P4
1.お客様に満足を	P5~16
・「森」と「水」の大切さを学ぶ環境教育/ステークホルターの声(大宜味村村長 宮城功光氏) ・ヤンバルクイナの住む森の水資源保護活動	
・「い・ろ・は・す」水資源保全プロジェクト/ステークホルダーの声(首里城公園友の会 高良倉吉氏)	
・あしたにつながる環境推進活動	
・環境に配慮したものづくりへのチャレンジ!!	
・マネジメントシステム「KORE」	
・お客様の期待に応えるために	
2.地域社会と共に歩む	P17~23
・地域社会との連携の輪	
・スポーツも!イベントも!笑顔が生まれる時を心から応援	
・次世代を担う、沖縄の子どもたちを応援!!/ステークホルダーの声(沖縄県教育庁 登川安政氏)	
・大切に守りたい、わした島の豊かな自然(環境理念・環境方針)	P24
3.働きがいのある会社に	P25
よりよい職場づくり会社概要	P26
	P27
・コカ・コーラグループ役員紹介	
・グループ会社紹介	P28
·浦添工場 G コーヒー製造工程紹介(琉球新報社提供)	P29~30
2017年CSRレポートについて 編集方針について 本レポートはこれまで取組んだ内容や活動結果から主要なものを報告しています。	LL+1-
コカ・コーラシステムが、世界的に推進する活動や日本国内で行っている活動を紹介する 当社が、CSR「Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任」に対する取 掲載し、持続可能な活動に繋げることを目的に発行しています。	

対象期間·対象範囲

期 間:2016年5月~2017年5月末

範 囲:沖縄コカ・コーラボトリング株式会社、グループ会社

日本のコカ・コーラシステム

日本のコカ・コーラシステムは、日本コカ・コーラ株式会社と、各地域で製品の製造・販売を行う 5 つのボトリング会社(ボトラー社)や関連会社などで構成されています。

日本コカ・コーラ株式会社が製品の原液を製造し、全国のボトラー社に供給。ボトラー各社はそれぞれの工場で厳重な品質管理のもとに各種製品を製造しています。

完成した製品は、ボトラー各社の販売拠点となっている全国の事業所に配送された後、ルートトラックと呼ばれる配送車でお店まで直接配送されます。また、自動販売機を広範囲にかつ効率的に設置してお客様の利便性に答えています。このように地域に密着した製造・物流・営業を行い地域とともに成長していくのが、コカ・コーラシステムです。



株式会社コカ・コーラ東京研究開発センター

1993 年 1 月にザコカ・コーラカンパニーの全額出資により設立。従来の米国本社を中心とした技術開発部門から分離・独立した同社は、日本のニーズに即した製品開発・技術サポートを行う。

コカ・コーラアイ・ビー・エス株式会社

日本のコカ・コーラシステムにおける I Tシステム関連業務を担う。

コカ・コーラビジネスソーシング株式会社

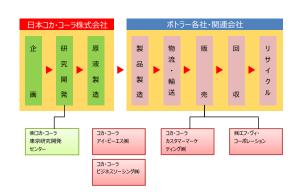
日本のコカ・コーラシステムにおける原材料、資材、機材および間接材の調達業務全般を担う。

コカ・コーラ カスタマーマーケティング株式会社

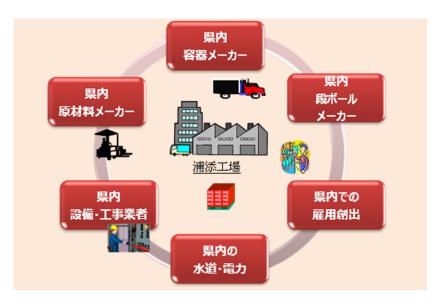
日本コカ・コーラと全ボトラー社の共同出資により2007年1月発足。全国規模の大手流通チェーンおよびフードサービスチェーンに対する商談窓口機能を担う。

株式会社エフ・ヴィ・コーポレーション

日本コカ・コーラと全ボトラー社の共同出資により、2001 年 5 月設立。自動販売機事業における広域法人への営業を行う。



沖縄コカ・コーラは、清涼飲料水の製造・販売を通して地域に貢献していきます。



経営理念

ワシタ チム グクル

私達の経営理念

お客様に満足を

私達は、お客様を最優先に考え、満足を提供し会社の信頼を得ます。

地域社会と共に歩む

私達は、企業の安定成長をはかり、地域社会の繁栄に貢献します。

働きがいのある会社に

私達は、健康で明るく活き活きとした働きがいのある会社にします。

社 是

誠を尽くす

行動規範

- さわやかな挨拶をしよう。
- ・円滑なコミュニケーションをしよう。
- ・自己啓発をしよう。
- ・積極的にチャレンジしよう。
- ・問題意識を持って行動しよう。
- ・変化に素早く対応しよう。
- ・感謝の心で接しよう。



「ワシタ チム グクル」の精神で地元に根ざし、 県民の皆様に信頼され、親しまれる企業をめざします。

当社は、本土復帰前の昭和43年2月に設立され、県内最大の清涼飲料水の製造工場を保有し、沖縄県を販売地域として、コカ・コーラ製品を県産品として製造・販売する、地元のボトリング会社です。

設立以来、沖縄県民と共に発展することを念頭に、県民 の皆さまに支えられ成長させていただき、今年で創立 49 年 目を迎えました。

県内での事業を継続的に行なうために、市場環境の変化に柔軟に対応できるよう経営を安定させ、一層の収益改善を行うことを通して、地域社会の皆さまへ、企業市民としての責務を効果的に果たしていきます。

事業活動においては、「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」に充分配慮した、経営システムの構築を目指します。

法令遵守 (コンプライアンス) は勿論、労働環境の改善、 消費者への対応、環境問題への配慮、地域社会への貢献 など、適切な対応をとることが、企業としての成長につながるも のと認識しております。

更に沖縄県でのモノづくりを通して、製品の原材料・資材の 調達面で、地元企業の県産品を使用することにより、県経済 の発展にも寄与して参ります。

また、沖縄県の「次世代育成」「文化・スポーツ支援」「環境教育」「地域社会貢献」の各方面で、経営理念にも掲げています「地域社会と共に歩む」を実践して参ります。

来年は、創立 50 周年の節目を迎えます。 これからも、県民の皆さまのご愛顧に感謝申し上げますととも に、明日の成長を目指して参ります。

沖縄コカ・コーラボトリング株式会社 代表取締役社長 城 英俊



1. 為容儀に満足を

「森」と「水」の大切さを学ぶ環境教育

コカ・コーラシステムでは次世代の環境を担う子どもたちを対象に、水の源である森林について「知る」、森林の大切さを「学ぶ」、植樹・育樹を通して「体験する」ことで、地域・市民としての意識を高め、自然保護の重要性を理解してもらうことを目的として環境教育活動に取組んでいます。当社は 2006 年から沖縄本島最大の水資源であるやんばるエリアにて、行政・地域ボランティアの皆さんと一緒に継続して活動を行ない、今年で 11 年目になります。

コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト実績

開催時期	開催地	参加人数	活動	内 容
2016年 7月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	120人	育樹	除草·肥料入
2015年12月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	15人	育樹	除草·肥料入
2015年 7月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	104人	育樹	除草・肥料入
2014年11月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	197人	植樹	つばきの種・苗植え(苗200本・種2,000粒) シークヮーサー剪定肥料入れ
2014年 8月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	150人	育樹	肥料入·散水
2013年12月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	310人	植樹	つばきの種・苗植え(苗200本・種2,000粒) シークヮーサー剪定肥料入れ
2013年 8月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	100人	育樹	枝の剪定・水かけ・除草・肥料入
2012年11月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	411人	植樹	つばきの種植え、苗植え(種植え1200粒、植樹小苗30本、 植樹大苗15本数、次年度の苗作り800粒)、除草と追肥、 シークヮーサー除草と追肥
2012年 9月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	50人	育樹	除草·肥料入
2011年 6月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	-	育樹	除草・肥料入
2010年11月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	約500人	植樹	つばき(苗300本・種800粒)
2009年11月	大宜味村 大保ダム仮設跡地	約500人	植樹	つばき・シークヮーサー(約500本)
2009年11月	国頭村 くいなパークゴルフ場周辺	約150人	育樹	除草·肥料入
2008年11月	国頭村 くいなパークゴルフ場周辺	約400人	植樹	ハイビスカス・桜(約600本)
2007年11月	国頭村 県道2号線入口付近	約400人	植樹	ヒカゲヘゴ(約500本)
2007年 6月	国頭村 やんばる学びの森周辺	約200人	育樹	草刈り
2006年11月	国頭村 やんばる学びの森周辺	約500人	植樹	フヨウ・琉球松・他(約2,000本)

ステークホルタークテーやんばるの自然保全

大宜味村長 宮城 功光 氏

「森に学ぼう」プロジェクトで提唱する、水の源である森林について「学ぶ」「知る」「体験する」の理念と共に、水は命の源でもあり、やんばる国立公園地域に指定された本村においても、貴重な生物たちの生息環境を守っていくことが、今後の地域の大きな使命でもあります。そのような中で、2009年より御社の絶大なご尽力の下で実施されてきました「森に学ぼうプロジェクト in 大宜味」では、本村に位置する県内2番目の貯水量を誇る大保ダムの重要性を広く県民に知っていただくことができたこと、植樹・育樹活動を通してやんばる地域の自然環境の良いも悪いも現状を知っていただく機会を醸成していただけたこと、またその自然環境を活かした地域振興としての、エコツーリズムプログラムの展開が図られてきたことに対しましても感謝申し上げます。

植樹しました村木のシークワーサーは、今年で8年目を迎えます。シークワーサーは植え付けから9年で実を付けます。これまでの育樹活動が功を奏し、葉っぱも青々と元気に成長しております。ツバキについても幾たびの補植なども含めて育樹のおかげでしっかりと成長してきております。やはり人間の力により、森の管理(育樹)に取り組むことの大切さを体感し、その活動こそ自然環境を守っていくことに繋がることを参加した皆様と村の宝である子ども達へも、感じてもらえたものだと思います。

今後も活動の継続から、ここにしかない貴重な「やんばるの自然」の保全と善良な活用が次世代に繋がることを期待しています。

1.お客様に満足を

森に学ぼうプロジェクト 第1回~第18回

















1.お客機に満足を

ヤンバルクイナの住む森の水資源保護活動

購入いただいた1本からクイナ保護活動へ



自動販売機を活用し、ヤンバルクイナの保護活動を目指す

当社は 2007 年より自動販売機の、売上金の一部を「NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄」のヤンバルクイナ保護活動に寄付する取り組みを開始し、更に 2010 年からは生息域にある既存のコカ・コーラの自動販売機にヤンバルクイナの鳴き声を集めるマイクを設置しました。ヤンバルクイナ保護・増殖の取り組みを進める為に必要な野生のヤンバルクイナの生態調査の把握につながり、既に鳴き声の記録には成功しており、現在は記録を集積している段階。今後、蓄積された鳴き声を解析し、行動や生態の把握、さらには繁殖地域の特定につなげることを目指し、環境省のヤンバルクイナ保護増殖事業を側面から支援することで個体数回復に役立てたいと思います。

ひとりでも多くの方にヤンバルクイナを取り巻く状況を知ってもらい、ヤンバルクイナが野生で絶滅してしまうことのないよう、ヤンバルクイナの保護活動の輪が広がっていくことを願っています。

ヤンバルクイナは世界で沖縄本島北部の山原(やんばる)の地域のみに生息する飛べない鳥で、国の天然記念物に指定されています。

日本の鳥類で最も絶滅が迫っている種のひとつで、2006 年には環境省レッドリストに最も絶滅のおそれの高い「絶滅危惧種IA種」として記載されました。集落周辺に現れたヤンバルクイナが交通事故に遭うケースも増えており、環境省那覇自然環境事務所は2010年6月に非常事態宣言を発令し、環境省、県、地方自治体、NPO 等関係者による保護対策が進められています。



ヤンバルクイナの行動 生態調査 プロジェクトの概要

公益財団法人 山階鳥類研究所 日本唯一の鳥類専門の研究機関。このプロジェクト を技術的に支援しています。

技術的サポート



沖縄コカ・コーラホトリンク、株式会社 自動販売機で野生のヤンバルクイナの鳴き声を録音。定期的な製品補充の際に、データチップを交換・回収します。



自動販売機の設置場所を提供

国頭村·安田区

コカ・コーラ自動販売機の設置場所を提供します。 また、お客様にご購入頂いたコカ・コーラ製品の売上 げ金の一部は、クイナ保護活動に寄付されます。

※生態調査は2016年12月にて一時終了致しました。

国立沖縄高等専門学校

録音された音声データに電算処理を施しヤンバルクイナ の鳴き声のみのデータにして変換いたします。

鳴き声データの変換



録音データ提供

NPO 法人どうぶつたちの病院 沖縄 ヤンバルクイナの鳴き声を分析。 ヤンバルクイナの行動や生態を把握します。

録音データの分析結果の供給



ヤンバルクイナ保護増殖センター(環境省) ヤンバルクイナの保護施策検討の基礎資料・管理資料 として活用します。

売上金の一部を寄付

1. 為客機に満足を

水資源保護

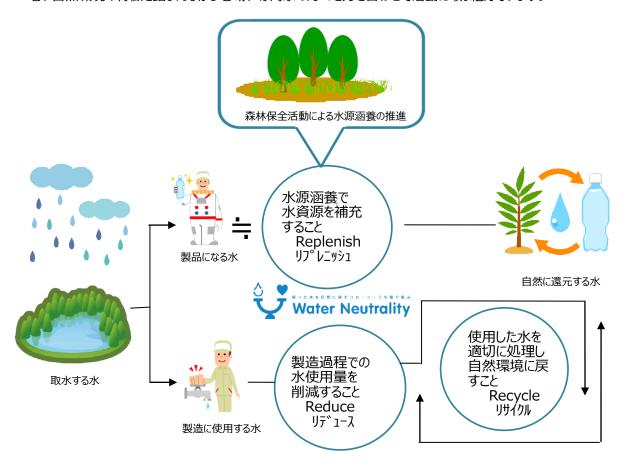
コカ・コーラシステムでは、世界各地で清涼飲料を製造・販売する企業の社会的責任として水資源の持続的な活用に向けた、水資源管理プロジェクト「Water Stewardship」に取り組んでいます。これは、取水管理、水質管理、効率的活用、排水管理、水資源保護の5つの側面から水資源を管理するものです。当社では、県内北部のダムから取水していますが、「製造に使用される水」と「製品になる水」の大きく2つに分類されます。

「製造に使用する水」は、工場内で効率よく利用され、使用後厳格な基準に基づき河川に放流しています。

「製品になる水」は、「森林保全活動」を通して水源涵養に努めています。

Water Neutrality(ウォーター・ニュートラリティー)

水資源保護の一環として製品をつくるために使った分の水を自然にかえす「Water Neutrality」を推進しています。この取り組みは、2020年までに全世界で製品および製造で使用した量と同等量の水を自然に還元することを目指しています。水源エリアの自然環境が持続的に水を育み蓄える力を持ち続けていけるよう、その土地や自然環境の特徴を踏まえながら地域や専門家の方々と力を合わせて活動に取り組んでいます。



水資源を守り、大切な水を使って、キレイに戻す。

コカ・コーラシステムでは、日本全国で水資源保護に取り組んでいます。

目標は、製品および製造で使った量と同じ量を自然に還元すること。

つまり、"WATER NEUTRALITY(ウォーター・ニュートラリティー)"の実現です。

工場の中から地域の自然まで、私たちの活動は広がっています。

「い・ろ・は・す」水資源保全プロジェクト ~ 首里城公園友の会を支援 ~

2017 年に国内で販売されます「い・ろ・は・す」の売上金の一部を、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団を通じて、日本の各地で水資源保全活動を行っている団体に寄付し、活動を支援する「い・ろ・は・す」水資源保全プロジェクトがスタート。今回「首里城公園友の会」様が、沖縄本島北部辺野喜ダム水源域で、「首里城復元記念植樹~先人に学ぶ植樹思想~」事業として1993年に記念植樹を行ないその後、2002年から「イヌマキ育樹祭」を毎年開催しています。同会員の皆さまとの親睦を図りながら、沖縄県の伝統文化の継承、自然愛護、緑化思想を啓発する活動を継続的に行なっている首里城公園友の会様の「イヌマキ育樹祭」を、当社は応援していきます。



ステークホルターク៌感動の寄付金!

首里城公園友の会 副会長 高良 倉吉 氏

沖縄県民の悲願である首里城復元の事業がスタートしたとき、私たち関係者は頭をかかえてしまいました。復元に不可欠な材木、イヌマキ(方言名:チャーギ)が県内には1本もないことが分かったからです。しかたなく、県外産のイヌマキを入手して急場をしのぎました。

琉球王国時代には、きちんとした山林の育成・保全体制が存在していました。イヌマキは大切な材木でしたので、みずからの手で植樹し、育樹に取り組み、活用していたのです。しかし、その時代が終わると、イヌマキは伐採されるのみで、計画的に育てるということをしてきませんでした。その結果、いざ首里城を復元しようという段になって、県内には必要なサイズのイヌマキが1本もない、ということになったのです。

50 年、100 年先になると、首里城は大規模な修理が必要となります。そのときには、 県内で育ったイヌマキをぜひ使ってほしいとの願いをこめて、首里城公園友の会は会員参加のもとで、ヤンバルの森でイヌマキを育てています。この事業に対して、いろはす水源保全プロジェクトから寄付金が贈られたことに、私たちは感動しています。

平成28年度 沖縄県環境保全功労者表彰



2016年11月27日(日)浦添市民体育館

おきなわアジェンダ 21 県民会議は、行政、事業団体、市民団体、学識経験者など、あらゆる主体の参加協力により沖縄県の環境保全活動に取り組む組織です。その県民会議より平成 28 年度の沖縄県環境保全功労者として、表彰を受けました。2006 年より、次世代を担う子どもたちを対象に自然保護の重要性を理解してもらう事を目的として、水と森の大切さを、植樹・育樹活動を通して体験する「森に学ぼうプロジェクト」を開催し継続していること、更に地球温暖化防止の取り組みを推進するために、CO2 吸収量認証取得に取り組むなど、沖縄県の環境保全に大いに貢献したことなどが評価されました。

あしたにつながる 環境推進活動

地球温暖化対策

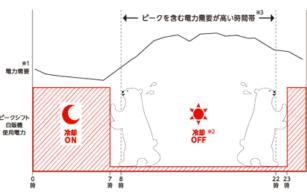
ピークシフト自販機の展開

「ピークシフト自販機」とは、電力使用がピークとなる時間帯に冷却運転を停止し、最長 16 時間冷たい製品を販売できる超省エネ型の自動販売機です。真空断熱材の採用により保冷機能を高めることで、冷却のための電力使用を日中から夜間にシフト。日中の消費電力を 95%(※)削減できるようになりました。

この「ピークシフト自販機」は、2013年度の「省エネ大賞」で最高賞である経済産業大臣を受賞。 「第 10 回エコプロダクツ大賞」で推進協議会特別賞(節電優秀賞)を受賞しました。



平成25年度 省エネ大賞 (省エネ事例部門)



- ※1 各電力会社の2012年度夏期最大需要日の電力使用率 出典:各電力会社公表資料より作成。
- ※2 日中冷却が停止している時も販売に必要な待機電力が発生します。ピークシフト自販機が設置されている場所によって夜間に冷却停止し日中冷却するように設定されている場合があります。 また日中、製品補充後に冷却運転を行う場合があります。
- ※3 2014年4月に施行される、改正省エネ法で設定される「電気需要平準化時間帯」を指します。



ハイブリッド車輌の導入拡大

当社では、物流拠点の統合や配送ルートの見直しなどによる輸送の効率化やエコドライブの推進・徹底を図ることによって、燃費向上と CO2 排出量削減に取組んでいます。また、2009 年よりハイブリット車両等の環境配慮型車両の導入を拡大しています。



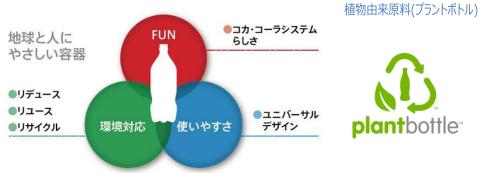


1.お客様に満足を

循環型社会

サスティナブル・パッケージ

おいしさを抱くパッケージに求められるのは才色兼備であること。コカ・コーラシステムでは、FUN(楽し さ)のあるデザインを追求するとともに、維持可能な容器という意味の世界共通コンセプト「サスティナ ブル・パッケージ(持続可能な容器)」を揚げ、環境にも人にも優しい容器開発の実現に取り組んで います。



plantbottle

「プラントボトル」を使用した「い・ろ・は・す」のボトル

グリーン調達製品(再生品)の活用

ユニフォームや空容器回収ボックスなどの販売資材、ボー ルペンやバインダーなどの広告資材(ノベルティー)に、PET ボトルのリサイクル製品を活用しています。











製造のユニフォーム 営業のユニフォーム

自動販売機の適正処理とリサイクル

自動販売機の廃棄・リサイクルは、法律に基 づき「自動販売機マニフェスト」を運用。フロン ガス回収や蛍光灯に含まれる有害物質を適 正処理するなど、環境負荷の軽減に努めてい ます。



正しい知識・製品情報の提供

清涼飲料メーカーとしてお客様の健康への関心に応える責任を 認識し、健康的な生活習慣に役立つ正しい知識の提供と理解の 促進に努めています。

製品の成分に関する情報については、製品パッケージや WEB サ イトなどを通じて情報を公開し、お客様に分かりやすくお伝えできる よう工夫と改善を重ねています。

2012 年からはお客様がご自身のニーズに合った製品を選択する 際の参考情報として、ほぼすべてのコカ・コーラ社製品パッケージの 前面にカロリー情報を表示しています。



前面のカロリー表示

栄養成分表示(100g当り) エネルギー 35kcal, たんぱく質 0.6g、脂質 0.5g、炭水化物 6.9g、ナトリウム 53mg

パッケージ上での製品情報公開

ひと回でわかる!

❷ 機能性表示食品

※トクホとは、特定保健用食品のことです。

トクホ (特定保健用食品) と機能性表示食品は、 申請や届出の流れや表示方法に違いがありますが、 科学的な根拠に基づいたデータと安全性試験を もとに機能の表示が許された食品です。



「トクホ」ゃ「機能性表示食品」の

製品にはパッケージに記載があります。



卜7旅





こちらのマークが ついています

とちらも 科学的根拠によって、 効果の有効性や安全性が確認されています。

トクホ



機能性表示食品



最終製品による臨床試験、 または、効果を示す研究論文や文献調査を実施

どちらも消費者庁への申請/届出がなされており、 信頼性が確保されています。







機能性表示食品







現在、販売されている製品の主な効果・効能の例

卜7 市



現在許可されているのは、中性脂肪、血圧 血糖値、コレステロール、歯、整腸、骨、

ミネラル、肌などに役立つ食品。「おなかの 調子を整える」「血圧が高めの方に」「カルシ ウムの吸収を促進」などと表記されています。











機能性表示食品











神的ストレス、身体的疲労、記憶力、体温、 肝臓、筋肉、腰などに役立つ食品。「ピント 調節サポート」「緊張感の軽減」「記憶力の 維持」などと表示されています。

環境に配慮した ものづくりへのチャレンジ!!

もっとも大切な安心・安全のためのものづくり

厳格な基準に基づく排水管理

清らかな水がなければ、わたしたちの製品は生まれてくることができません。コカ・コーラシステムでは、2006年より世界各国で排水管理の取組みを強化しています。工場から排出される工程排水・雨水・汚水など、すべての排水に対し国際規格である ISO や、水質汚濁防止法や下水道法など、国内の水質基準とさらに厳しいコカ・コーラの「KORE(Coca-Cola Operation Requirements)」^{※P15}の要求事項のどちらか、より厳しい方の基準を適用し、排水処理を行っています。



排水処理全景



新規増設の膜処理設備



排水は、1 時間に 40t の処理能力を持ち 2 つの槽で希釈された後、ph 調整、微生物処理、膜処理を行ない、コカ・コーラシステムの厳しい基準まで浄化され、河川に放流されます。

水の効率利用・水質管理のための

最先端の循環利用水施設

1 L の製品が完成するまでに使用する水量は、平均 3.53L (2016 年実績)。高い品質を守るために工場の水はその大部分が、実のところ"中身"以外で使われています。製品の原料の他に工場の配管内や容器の殺菌工程などで使用される水が必要とされるためです。当社浦添工場では、コカ・コーラシステムの最先端の設備を利用し、洗浄水をはじめとして工場で使われた水を、RO 膜という特殊なフィルターに通して不純物を取り除き、真水に戻します。冷却水や床の洗浄水などとして、可能な限り再利用する循環システムを実現し、水の使用量をできる限り減らす取組みを推進しています。



RO膜処理設備

キレイな真水になった水はラインに戻り、もう一度洗浄水として活躍します。実に90%以上の水がごうして"職場復帰"を果たしているのです。何度もよみがえる工場の水は、スタッフにも負けない働き者なんですね。

ゼロエミッションに挑戦!

おいしいひとときを彩るコーヒーやお茶の製造過程で生まれる「コーヒーかす」や「お茶かす」を農作物の生育に使う堆肥としてほぼ 100%再資源化を継続しています。



コーヒーかす



茶かす



堆肥

1.お客機に満足を

廃熱再利用によるCO2削減!

従来、工場でのボイラー設備への給水は、排水再利用設備で処理された冷水を使用していましたが、工場内で発生した温水を再利用するボイラー給水加温ユニット導入により、ボイラー燃焼時のエネルギーを抑えることができ、年間石油資源(重油)を2014年度と比較して40トン削減するとともに、CO2の発生を15トン削減する改善を実現しました。また、2016年末にはコ・ジェネレーションシステムの設置も完了しました。これからも、たゆまず現状を見直し、創意工夫を図り、環境負荷への軽減を実現していきます。



工場廃熱再利用システム

コ・ジェネレーションシステム

ガスエンジンを天然ガスで稼動させ、発電を行い 400kW の電力を工場に供給しピークカットを実施。また、エンジンから出た廃ガスを利用し、ボイラーを稼動させることで、蒸気(熱)も工場へ供給するシステムになっており、1つのエネルギーから2つの異なったエネルギーを生み出して、CO2 排出量を年間766t削減しております。



コ・ジェネレーションシステム

浦添工場の取組み(品質・労働安全・環境)



国際基準への対応

·品質、食品安全、労働安全、環境の 4側面のISOを取得。

·ISOの基準よりもさらに厳しい 「KORE」: 要求事項(世界共通の コカ・コーラ要求事項)に沿って製造を 行っています。

労働安全衛生 決意表明

安全に対する思いを伝える 従業員が 気付き考え 不安全行動をしない 仕組みと仕掛けを整備する。

出荷前官能検査も世界基準に沿って実施



ISO9001



FSSC22000



OHSAS18001



ISO14001

沖縄農林水産関連企業環境対策協議会会員として

沖縄農林水産関連企業環境対策協議会会員として、同会員相互の緊密な連絡を行うとともに、公害防止・資源の再利用等に関する事項についての知識の普及向上を図り、農林関連企業の健全なる発展と環境保全に寄与するため、県内での会員活動に参画しています。



2016年10月 本社訪問

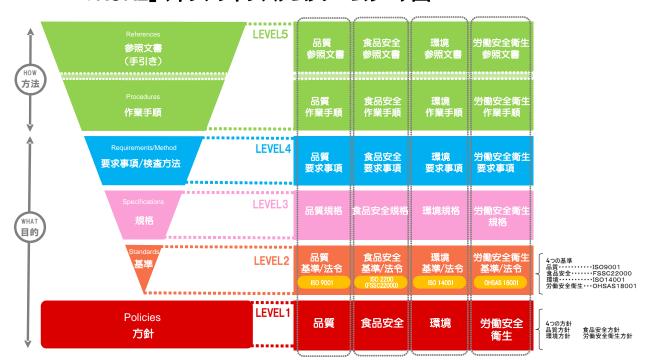
マネジメントシステム「KORE」

コカ・コーラシステムは、2010年より世界共通で「KORE(Coca-Cola Operation Requirements)」*1.2 と呼ばれる独自のマネジメントシステムでオペレーション管理を行っています。「KORE」は原材料の調達から製造、物流・輸送、販売を経てお客様に製品が届くまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格である ISO や各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自ら課す内容となっています。オペレーションのチェック機能は、審査登録機関による各要求事項へのパフォーマンス測定が少なくとも年1回行われており、社外第三者からの客観的評価が加わることでマネジメントシステムの公明・公正な運用が保証されています。

- ※1「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているザ コカ・コーラ カンパニーの略称
- ※2 KO Operating Requirements(コカ・コーラ オペレーティング リクワイアメント)の略称

KORE

「KORE Iマネジメントシステムフレームワーク図



お客様の期待に応えるために

お客様満足のための基本方針

私たち沖縄コカ・コーラボトリング株式会社は、あらゆる企業活動を通して 地域の皆様に「爽やかさと潤い」をお届けしたいと考えております。 お客様と のふれあいを大切にし、安全で安心できる製品、サービスを提供するととも に、お客様の声を積極的に企業活動に活かし、行動指針に基づきお客様 から信頼される企業をめざしてまいります。

行動指針

- ・お客様からの声を真摯に受け止め、迅速且つ適切に誠意を持って対応します。
- ・お客様からのご指摘・ご要望を重要なコミュニケーションの機会ととらえ、正確な情報収集と積極的な 情報提供を行います。
- ・お客様とのコミュニケーションを大切にし、お客様の声を積極的に企業活動に活かしコカ・コーラファンに なって頂ける企業を目指して行きます。
- ・お客様からのご意見は貴重なものとして社内で共有し、製品・サービスの向上に反映させます。
- ・お客様の権利を保護するため、関連する法規及び社内の自主基準を遵守いたします。



ご指摘対応プロセスの適合性に関する第三者意見書

お問い合わせ先 ご相談 お客様相談室 (日本コカ・コーラ) 電話 製品、マーケティングに関する お問い合わせ お ご要望 手紙 客 お問い 0120-308509 様 E X-II 日本コカ・コーラ(株) 合わ せ 沖縄コカ・コーラボトリング(株)

お客様対応フロー図

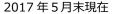
2. 贻赋社会と共に参む

災害時に活躍する自動販売機

コカ・コーラシステムでは、大地震などの災害によりライフラインが被害を受けた際、清涼飲料水を無償で提供できる「災害対応型自動販売機」を設置しています。各自治体との「災害時における救援物資提供に関する協定」を締結し、県内では累計 31 台を住民の避難場所となる施設を中心に設置。東日本大震災の際には全国で約 400 台が稼動して災害の現場で役立ち、県内においても津波による避難指示が発表された際、与那原町と沖縄市の災害対応型自動販売機にて、当社製品が無償で避難者へ提供されました。



自治体	台数	設置先
那覇市	2	本庁舎1階・総合福祉センター
宜野湾市	1	本庁舎裏側入口前
浦添市	3	本庁舎中庭·運動公園·消防署内間出張所
糸満市	1	本庁舎入口前
沖縄市	1	本庁舎入口側
豊見城市	1	中央公民館
南城市	2	本庁舎·大里庁舎
大宜味村	1	本庁舎入口横
東村	1	本庁舎駐車場
今帰仁村	1	本庁舎入口前
恩納村	2	本庁舎入口側·多目的運動場
宜野座村	1	本庁舎駐車場
金武町	1	保険課施設前
読谷村	2	本庁舎・総合福祉センター内
嘉手納町	1	本庁舎入口前駐車場
北谷町	1	老人福祉センター前
中城村	1	本庁舎
与那原町	1	本庁舎入口前
南風原町	1	本庁舎入口側
赤十字社沖縄県支部	1	沖縄県支部
沖縄県産業振興センター	1	4F
沖縄県中部福祉保健所	1	県母子会
浦添総合病院	1	地下1F
ザ・ビーチタワー 沖縄	1	3F
公立大学法人名桜大学	1	校内





ピンクリボン支援自動販売機 (那覇市首里末吉町)

地域貢献型自動販売機

地域貢献型自動販売機は、コカ・コーラ社製品を購入することによって、 手軽に参加できる地域貢献です。売り上げの一部は、地域のさまざまな 社会貢献活動、イベント、スポーツ団体の活動資金や、ヤンバルクイナ等 の野生生物の保護事業資金として還元しています。 県内には 300 余り の自動販売機が設置され、お客様とともに地域社会を応援しています。

中城小学校·幼稚園 津波避難訓練

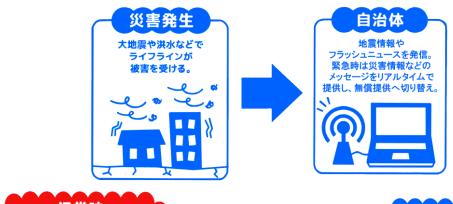
2012年より、中城小学校・幼稚園で合同の地震・津波発生を想定した避難訓練が継続して行われています。

中城村が村内の小学校に導入した地震や津波の緊急連絡システムを使った避難訓練で、警察・消防・教育委員会と合同で取り組んでいます。訓練では、津波が発生したと想定し、海抜47mの位置にある当社中部営業所の避難場所まで、全校児童が避難します。地元の企業として今後も継続して協力します。





災害対応型自動販売機による 地域支援の仕組み



通常時

地域情報メツセーン表示
防災の呼びかけや行政からのお知らせ、地域情報や
イベント案内などを表示し、掲示板として活用が可能
時事フラッシュニュースメッセージ表示
時事通信社の速報ニュースを表示し
リアルタイムのニュースを提供

災害対応型自動販売機

災害時には遠隔操作で自動販売機内の製品を 無償で提供します。停電時にも内臓パッテリーで 飲料を提供できるので安心です。



緊急時

「災害情報」メッセージ表示 自治体の防火担当者のパソコンから電波を 使って電光掲示板に情報を配信 「無償提供」設置 自動販売機内の清涼飲料水を無償で提供

地域貢献型自動販売機による地域支援の仕組み

地域貢献型自動販売機でご購入



売上げの一部を活動資金として提供





おもな地域貢献型自動販売機名称	台数
一般社団法人九州沖縄道の駅ネットワーク	5
NPO法人チーム沖縄	2
沖共募宜野湾市共同募金委員会	4
沖縄県交通安全協会連合会	10
沖縄県聴覚障害児を持つ親の会	1
沖縄県手をつなぐ育成会	1
沖縄マリンレジャーセイフティビューロー	2
おぎゃ一募金	2
かりゆしFC支援金	9
国頭村企画商工観光課	2 7
グリーンベルト支援金	7
合同会社琉球インターナショナル	19
サンゴ植付業務委託料	4
全国肢体不自由児者父母の会	37
全島エイサー支援金	36
豊見城龍船協会	7
ちゃたん海のライフセービングクラブ	5
那覇地区防犯協会	3 4
難病支援金	
日本赤十字社 沖縄県支部	13
ピンクリボン支援金	16
フットサル支援金	4
ボウリング場協会支援金	6
メッシュサポート支援金	36
ヤンバルクイナ保護活動支援金	44
有限会社イーストコーポレーション	20
夢の貯金箱支援金	5
琉球水難救済会支援金	8

2017年5月末現在

2.地域社会と共に歩む

スポーツも!イベントも! 笑顔が生まれる時を心から応援



NAHA マラソン



伊江島一周マラソン大会



那覇ハーリー

主な地域イベント協賛実績

ベン名	協賛開始年	備考
沖縄全島エイサーまつり	昭和43年(1968年)	第13回大会より協賛
那覇大綱挽(那覇まつり)	昭和46年(1971年)	第1回大会より協賛
那覇ハーリー	昭和50年(1975年)	第1回大会より協賛
浦添てだこまつり	昭和54年(1979年)	第1回大会より協賛
海洋博公園花火大会	昭和54年(1979年)	第1回大会より協賛
とみぐすく祭り	昭和56年(1981年)	第1回大会より協賛
与那原大綱曳(与那原まつり)	昭和58年(1983年)	第1回大会より協賛
ピースフルラブ・ロックフェスティバル	昭和58年(1983年)	第1回大会より協賛
シーポートちゃたんカーニバル	昭和62年(1987年)	第1回大会より協賛
うるま市エイサーまつり	平成18年(2006年)	第1回大会より協賛

沖縄全島エイサーまつり

主なスポーツイベント協賛実績

イベント名	協賛開始年	備考
NAHAマラソン	昭和60年(1985年)	第1回大会より協賛
全日本トライアスロン宮古島大会	昭和62年(1987年)	第1回大会より協賛
いぜな88トライアスロン大会	昭和63年(1987年)	第1回大会より協賛
なんぶトリムマラソン大会	昭和63年(1987年)	第1回大会より協賛
中部トリムマラソン	平成元年(1989年)	第1回大会より協賛
久米島マラソン	平成元年(1989年)	第1回大会より協賛
宮古島100㎞ワイドーマラソン	平成 3年(1991年)	第1回大会より協賛
おきなわマラソン	平成 5年(1993年)	第1回大会より協賛
伊江島一周マラソン大会	平成 5年(1993年)	第1回大会より協賛
伊平屋ムーンライトマラソン	平成 6年(1994年)	第1回大会より協賛
あやはし海中ロードレース	平成13年(2001年)	第1回大会より協賛
尚巴志ハーフマラソンin南城市	平成14年(2002年)	第1回大会より協賛

写真提供 / 琉球新報社、沖縄タイムス社

2.地域社会と共に歩む

沖縄県サッカー協会より 感謝状授与

2016 年 10 月 30 日、一般社団法人沖縄県サッカー協会創立 50 周年記念の祝宴にあたり、同協会の振興発展のために10 年以上の永きにわたり、尽力し、特に功労顕彰と認める団体に贈られる、感謝状が授与されました。



全肢連への支援活動

福祉の輪

コカ・コーラシステムでは 1980 年より「一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会」(全肢連)と協定を結び、全肢連活動を充実させるための財源として、売り上げの一部が活動資金に運用される支援自動販売機の設置を推進しています。

沖縄県肢体不自由児者父母の会連合会(沖肢連)の活動が発展していきますよう、同会と共に活動を支援していきます。



2017年1月

講師派遣授業

那覇市立小禄中学校で行なわれている「キャリア教育」の一環として、企業(団体)の協力を得ながら、課題解決型学習を取り入れ、そのプロセスの中で人間関係形成能力、社会形成能力、課題対応能力の向上を目的とした総合学習授業に、当社社員が講師として協力しています。



期間内3回実施

インターンシップ(職場体験学習)

当社では、職場体験を通して若い世代が社会人としての素養を培う機会を提供するために、高校生を中心に、学生が企業で就業体験を行うインターンシップを受け入れています。



清掃・地域活動への参加

広く市民に川の現状を知ってもらい、親しんでもらう機会として、浦添市が市民、事業者、民間団体と協働して、牧港川上流域の清掃活動を行っています。当社も60名の社員が参加し汗を流しました。



浦添市松本市長を囲んで記念撮影

次世代を担う 沖縄の子どもたちを応援!!

奨学支援事業

「公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団」では、人物・学力ともにすぐれ、経済上の理由で大学進学が困難な事情にある学生に対し、教育支援として大学在学期間に、返済義務のない奨学金を授与しています。沖縄支部では、沖縄コカ・コーラ独自の支部採用枠を設け 1973 年(昭和 48 年)より奨学金支給を開始し、44 年目を迎えました。これまでに 59 百万円を支給し、93 名の卒業生を送り出しました。平成 29 年度は 14 名の支援がスタートします。



前列左より、教育支援課班長 國吉様、親泊沙綾さん、 城社長、知花杏樹さん、伊波興駿さん

後列左より、県立学校教育課 仲地様、嘉陽執行役員



城社長より証書・記念品授与

ステークポルターの 返済義務のない奨学金で 夢の実現を ____

祝辞 沖縄県教育庁 教育支援課 課長 登川 安政 氏

奨学生証書を受けられた3名の皆さん、まことにおめでとうございます。

また、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団沖縄支部長 髙橋俊夫様をはじめ、財団関係者の皆様におかれましては、長きにわたり奨学金事業をはじめ、教育に対する数々の社会貢献を続けてこられたことに対し、感謝申し上げます。

この奨学金は、コカ・コーラシステムと沖縄コカ・コーラボトリング株式会社が社会貢献の一つとして、次世代の中堅となる人材の育成を図るため、大学在学の最短年数、給付される返還義務のない奨学金と伺っております。このようなすばらしい事業を、特に沖縄支部におかれましては、支部採用枠を設けていただき、関係者の皆様にあらためて感謝申し上げます。本日奨学生証書の交付式を受けられた皆さんは、この奨学金を大切に活用して、さらに勉学に励み、充実した大学生活を送っていただきたいと思います。そして大学卒業後は将来の夢を実現し、本県の未来を担う人材として、リーダーとして活躍される事を期待しております。

結びに、3名の奨学生のみなさんの今後の頑張りと活躍、そして公益財団法人コカ・コーラ教育環境財団の益々のご発展を祈念しますと共に、今後とも本県教育へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げましてご挨拶といたします。

奨学生の声

●親泊沙綾さん

「患者の心に寄り添い、生きる希望を与えられるような看護師になりたい。」 私は、初めて看護師になる夢を抱いた日の事を鮮明に覚えています。

今回、本部採用として認めて頂いたことに喜びと同時に、自らの努力が認められたという自信が沸きました。この春からは親元を離れ、慣れない環境での生活に不安はありますが、財団から頂く奨学金は精神的にも心強く思います。これからも応援してくれている方々がいることを忘れず、自分に厳しく、成長できる大学生活を送っていきます。

また、城社長から頂いたコカ・コーラの創業者である高梨仁三郎さんの *人によろこびをあたえ、一緒に幸福になろう。という言葉を胸に、人に喜びを与えられるような、人を笑顔にできるような人材になれる様、努力していきたいと思います。そして、人に幸せを与えられるような立派な看護師を目指します。

●知花 杏樹さん

奨学生内定通知が届いた時は、嬉しかったと同時に、まだ受験が終わっていなかったので、「絶対に合格しなくては」と思いました。無事、合格し、奨学生になれてほっとしています。大学では親元を離れ、一人暮らしを始めるので、浪費しないようお金の管理を徹底することと、日々の食事を疎かにせず、学業に励み、サークル活動などで仲間と交流を深めたいと思います。

●伊波 興駿さん

大学では4年後の国家試験で合格する事を目標に、しっかりと勉強に励みたいと考えています。 1年次には共通過程の履修に、2年次以降は検査技術学コースに進み、臨床検査技師に求められる知識・技術を習得する事に力を注ごうと思っています。また、単に勉強のみに時間を費やすのでは無く、様々な事に積極的に挑戦し、自らの意見や教養を深めていきたいです。

当社は、1968 年(昭和 43 年)の設立以来、沖縄県と共に発展することを念頭に、 奨学支援事業を行って参りました。

これからも、創立者の意思を引き継ぎ「沖縄県の次世代育成・人材育成」に貢献できる企業を目指していきます。





2.地域社会と共に歩む

第23回コカ・コーラ環境教育賞

1994年に設立されたコカ・コーラ環境教育賞は、地域に根ざした環境ボランティア活動の助成・支援を通じた環境教育・環境保全活動の促進を目的として、国内の環境教育分野の推進に貢献しています。23回目を迎えた2016年度は87団体(活動表彰部門:52団体、次世代支援部門:35団体)の応募があり、その中から最優秀賞及び優秀賞を選出しました。

主催:公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

協力:読売新聞社

後援:文部科学省、環境省

地域の環境を守るための活動や企画を 2つの部門で広く募集・顕彰します。

「活動表彰部門」

小・中学生とその指導者を対象として、 地域社会に根ざした環境教育・環境保全 活動の実績を顕彰します。

[次世代支援部門]

高校生、高専生及び大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価し、具現化のための支援を行います。

開催年度	県内受賞団体(個人)	賞
2004年(第11回)	那覇市立小禄小学校	主催者賞
2005年(第12回)	サンゴとブロッコリの森自然学校	環境教育賞
2006年(第13回)	沖縄県立辺土名高等学校 環境科	環境教育賞
2007年(第14回)	うるま市立宮城中学校	環境教育賞
2007年 (新刊日)	嘉陽 宗幸 氏	主催者賞
2008年(第15回)	国頭村立安田小学校	奨励賞
2009年(第16回)	恩納村立喜瀬武原中学校	優秀賞
2009年(第16回)	西表ヤマネコクラブ	優秀賞
2010年(第17回)	沖縄県立宮古総合実業高等学校 環境班	大賞
2010年 (第17回)	久米島 ホタルの会	優秀賞
2011年(第18回)	浦添市立港川小学校	大賞
2012年(第19回)	名護市立屋我地中学校	優秀賞
2013年(第20回)	白保魚湧〈海保全協議会 (白保中生徒)	大賞
2013年 (第20回)	美らくいな(国立沖縄工業高等専門学校)	優秀賞
2014年(第21回)	大宜味村立喜如嘉小学校	優秀賞
2019年 (第21四)	沖縄県立八重山農林高等学校	優秀賞
2015年(第22回)	名護市立小中一貫教育校 緑風学園	優秀賞
2013年(第22四)	沖縄工業高等学校科学部環境分析班	優秀賞
2016年(第23回)	県内ノミネート団体対象なし	



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス (北海道夕張郡栗山町)

コカ・コーラ復興支援基金

コカ・コーラシステムでは、東日本大震災で被災した東北 3 県の高校生を対象に、米国でのホームスティ研修プログラムを実施しており、2013 年は 119 人を送り出しました。また秋には、音楽を活動の柱とする米国の「ヤングアメリカンズ」と子どもたちが織りなす歌とダンスのショー「ヤングアメリカンズ東北ツアー2013」(実施:じぶん未来クラブ)を支援しました。

当社は、コカ・コーラシステムの一員として復興を支援しています。











わたしたちの環境理念

沖縄コカ・コーラボトリングでは、コカ・コーラシステムの環境方針に従い、コカ・コーラシステム各社とともに、地域規模の環境保全の重要性を認識し、地域における環境の継続的な改善を推進します。

わたしたちの環境方針

沖縄コカ・コーラボトリングでは、当社の事業活動が環境に与える影響を理解し、 持続的な社会を目指すため、環境マネジメントシステムを導入し、全従業員参加 のもとに以下の施策を中心に取組みを行い、環境目的・目標を設定するとともに、 定期的な見直しを図ります。

- 当社に適用される環境関連法規制及び関連する会社の行った協定 約束について厳守します。
- ●沖縄県において、持続可能な地域社会の構築を目指します。
- ●当社の日々の活動で発生する環境負荷を低減するような活動に取組 みます。
- ●この方針を当社で働く全従業員に周知し、継続して事業を展開する地域社会の経済発展を促進する取組みを行います。

わたしたちの中期数値目標

●2021 年までに CO2 排出量を 2016 年度比 1%減らします。

2017年5月制定

3.働きがいのある会社に

2016年 安全ボトラー賞 受賞

コカ・コーラシステムでは、労働安全衛生に対する従業員の意識向上を目的として、2013 年より「スマイルと帰ろう!!」プログラムを実施しています。このプロジェクトは、危険を認識させる、従来の基本的な取り組みに加えて、家族の顔を自然と思い起こすような、温かみのあるポジティブなメッセージを発信することで、従業員の意識により強く訴えかけることをねらいとしています。

毎年7月1日を「スマイルと帰ろうDAY」と定め、職場で労働安全衛生について考える機会としてい

ます。すべてのボトラー社において、社長から社員に向けたトップメッセージが発信され、無事故・無災害に向けて意識をあらたにしています。

2016 年コカ・コーラシステムでの表彰制度で、労働安全に対する取組みや TIR*が全国平均以下のボトラー社の内、最も指標が優秀なボトラー社を表彰する取り組みの中で、当社が「安全ボトラー賞」を受賞しました。

社員一丸となり、労働災害の削減に取り組んでいきます。



城社長と日本コカ・コーラ ティトイ・フランシスコ副社長

TIR* = Total Incident Rate

医師による治療を受けた労働(=休業+不休業)の頻度(20万労働時間当りの件数)

NAHAマラソンに挑戦

当社は、1985年の第1回大会から協賛企業として、スポーツドリンクなどの提供を含め NAHA マラソンを支援しています。

過去には、チームとしての参加の他、社員が個人でフルマラソンに挑戦するなどしてきましたが、第31回大会はランナーチーム「COKE Okinawa」を発足し、「アクエリアス」や「コカ・コーラ」などの製品提供で、舞台裏からサポートするだけでなく、ランナー有志でも大会を盛り上げようとチームで出場しました。



浦添工場の取り組み(人財育成) てだこ塾

浦添工場での社員教育を通して、生産性向上を図り、「安心」「安全」「高品質」な「モノづくり」を強化するため、 毎年6回浦添工場内の全従業員を対象に「てだこ塾」を 開催しています。

この取り組みは、2005年より継続して開催しており、工場内で働く従業員が小集団活動を通して成果報告を行うことで学びを共有し、「モノづくり」の強化につなげています。





会社概要

汁 名 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社

Okinawa Coca-Cola Bottling Co.,Ltd.

設立年月日 昭和 43 年 2 月 22 日

本社所在地 〒901-2555 沖縄県浦添市伊祖五丁目 14番1号

TEL(098)877-5255(代表) FAX(098)879-4527

資 本 金 4 億円

売 上 高 134 億円

決 算 期 12月

販売地域 沖縄県

事業内容 コカ・コーラ等、清涼飲料水の製造販売

関係会社 株式会社 丸仁ホールディングス

株式会社 琉仁カスタマーサービス

REX株式会社

役員(平成29年4月現在)

髙橋 俊夫 取締役会長 代表取締役社長 城 英俊 城間 康範 取締役 上村 行弘 取締役 新井 英寿 取締役 取締役相談役 高梨 圭二 中野 泰三郎 取締役

増田 浩之 監査役

執行役員

執行役員 加島純 新垣 勇 執行役員 執行役員 嘉陽 功 執行役員 多和田 仁

お問合せ

コールセンター

TEL (098) 877-5255 (代表) (平日9:00~18:00)

URL: http://www.okinawa.ccbc.co.jp

【事業所】

○浦添工場 098-877-5891 沖縄県浦添市伊祖 5-14-1

○機器サービス部 098-949-7882 沖縄県南城市玉城字愛地 727

【営業所】

○豊見城営業所 098-850-1029 沖縄県豊見城市字我那覇 493

〇中部営業所 098-895-5191 沖縄県中城村字屋官 286

○名護営業所 0980-52-2255 沖縄県名護市大北 1-23-35

○うるま営業所 098-965-7000 沖縄県うるま市石川伊波 1472

〇チェーンストア営業所 098-944-2011 沖縄県西原町字小那覇 343

○フードサービス営業所 098-877-5373 沖縄県浦添市伊祖 5-14-1

【グループ会社】

○(株) 琉仁カスタマーサービス 098-895-6045 沖縄県中城村字屋宜 286

○REX㈱ 098-942-7020 沖縄県浦添市伊祖 5-14-1

コカ・コーラ グループ役員紹介



取締役会長 高橋 俊夫



代表取締役社長 城 英俊



取締役 城間 康範



^{取締役} 上村 行弘



取締役 新井 英寿



^{執行役員} 加島 純



^{執行役員} 新垣 勇



^{執行役員} 嘉陽 功



執行役員 多和田 仁



(株)琉仁カスタマーサービス 取締役副社長 **仲村 光政**



REX(株) 常務取締役 **槇 憲**二



グループ会社紹介

株式会社 琉仁カスタマーサービス

自動販売機総合オペレーター 企業を目指して

(人にやさしく、環境に優しく、地域と共に)

昨今の自動販売機の運営についてのニーズ

- ■以下のようなご要望やご検討事項が増えてきました。
- ① 1 つのメーカーに偏らない 色々な種類の商品を揃えて 欲しい。
 - ●コカ・コーラを中心とした MIX缶自動販売機
 - ●レギュラーコーヒーも楽しめるカップ自動販売機
 - ●オフィスコーヒーサービス
- ②軽食がとれる自販機も欲しい。
 - ●カップヌードル自動販売機、カロリーメイト販売機
- ③自動販売機の電気代が抑制できるタイプを置いて欲しい。
 - ●台数集約、省エネ自動販売機
- ④自販機に係る事務的作業を軽減したい、セキュリティ 管理を強化し、同時に出入り業者を絞りたい。
 - ●コカ・コーラグループ1社管理

お客様の各種自動販売機を弊社にて 一括管理させて頂くことで管理業務を 簡素化し、質の高いサービスと豊富 な品揃えの商品をご提供いたします。



REX株式会社

信頼される 自動販売機オペレーター 企業を目指して

沖縄コカ・コーラグループの1社として、自動販売機のオペレーション業務を通して、高い品質で効率的且つ、 安定的な業務を行い、信頼される企業を目指します。

缶コーヒーのジョージアシリー ズは今年で40周年。「ジョージア ザ・プレミアム」はジョージア 史上最高傑作と銘打ち、味・香り・ デザインにこだわっています。手に した時に高級な質感が感じられる 触り心地も実現しました。



缶コーヒーができるまで 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社



原料となるコーヒー豆が入った 袋。焙煎・豆ひきされた状態 で工場に届きます



抽出釜で抽出。ひとつの釜で1度 に200~400%の豆からコーヒ を抽出します。この時点では、い わゆるブラックコーヒーの状態

原材料溶解タンク にて、砂糖や乳化 剤を溶かします





乳化剤・生クリーム等。商品に よって異なります)を調合します。 容量は最大で201%。1854,%%缶 が10万本も製造できます



レトルト釜にて高温・高圧で1200ケ ース、3万6千本が一気に殺菌処理さ



窒素ガス噴射で缶の外側を冷やすことにより、 内部から外側へ押し出す圧力が発生します。そ の力を利用してフタを締めています

るシーマーの 工程。低温の 窒素ガスを吹

・窒素を使用することで製品の酸化を防ぎコクを 保ちます。また、内からの圧力が働くため、フタ を開けた時に香りが広がります



製品液充填(フィラー)。くるくる回りながらど んどんと充填されていきます。生産能力は1分 間に185%が近缶がなんと820缶!



高速で通り過ぎる空缶に製造品番を 印刷します。手前の黒い装置でインク を飛ばし、奥でセンサーを使って印刷 状態をチェック

缶の底に印刷された「OUR」 の文字は、沖縄・浦添工場 の意味。れっきとした県産品 の証なのです







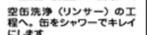
梱包のため運ばれ ていく缶。5×6列に そろえられた後、 ブッシュされ段ポ・ ル箱の中へ



原料の配合は人によるチェ ックと、生産管理パネルによ るパーコードチェックの二重 体制になっています





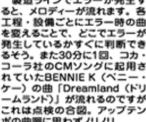


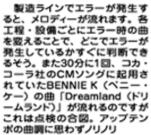
搬送されながら段ポール箱が折りたた

まれ、フタが閉じられます。数がそろっ

たら倉庫へと運ばれ、出荷を待ちます







約70年の歴史

コカ・コーラ社は1886年にジョージア州アトランタで誕生 し、戦後間もない1946年米軍の施設として沖縄工場が稼働。 はじめは県民向けの一般流通はしていませんでしたが、22年 後の1968年に沖縄コカ・コーラボトリング株式会社が創立 され、県民に親しまれるようになりました。

最新技術で環境にも配慮

沖縄コカ・コーラポトリング株式会社は最新技術を持った 機械を導入することで、重油からガスの利用、工場用水の再 利用化などを進め、生産性だけでなく環境についてもこれま で以上の配慮が可能となりました。製造に関わっている従業 員は皆「爽やかさとハッピー」を届けるため日々頑張っていま す。



(たから) 製造部長の渡邉一章さん、製造一課長の 安里恭平さん、品質管理課マネジャーの 嘉手納良人さん

徹底した品質管理

工場は米国アトランタ本社より徹底管理された万全 のチェック体制を導入。出荷前に「焦げ」「金属臭」「果 実臭」「薬品臭」などを確実に区別できる判定員の資 格保有者が30名在籍し、定期的に資格試験が行われ ています。また、年間6回、製造を止めて全体教育を 実施。品質面・労働安全面の教育、他工場の見学な ど従業員全員が参加して知識の向上を図っています。

琉球新報社提供



本レポートへのご意見・ご感想は下記までお寄せください。

沖縄コカ・コーラボトリング株式会社〈コカ・コーラ指定会社〉総務部 CSR 推進課 〒901-2555 沖縄県浦添市伊祖五丁目 14番1号 TEL.(098)877-5269 FAX.(098)877-5340